



歯ろはろ～新聞



発行/ 多田歯科医院

高松市木太町792-6

☎815-2010

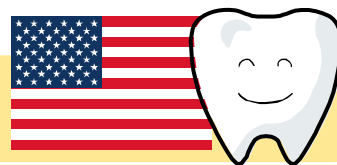
ホームページ <http://www.tadashika.jp/>

2月ですから寒い日が続きますね…。 きっと昔の人も同じように“2月”の厳しい寒さを感じていたことでしょう。 というのも、2月は旧暦では「如月（きさらぎ）」と呼ばれていて、その由来は“寒さで着物をさらに重ねて着る”という所からきているそうです。 寒い季節に服を重ね着することは、今も昔も変わらないですね。 ただ、近頃は“薄くても温かい素材の服”がたくさん売られていますから、昔の人が見たらさぞ驚くことでしょう（笑） さて、今月は「うるう年」のため“2月29日”まであります。 なぜ4年に1度“うるう年”になるのかというと、実は“暦（こよみ）と地球の自転速度のズレを修正するため”にあるそうです。 こういった暦と地球の自転速度についての話は、ちょっと難しすぎてここではお話することはできないのですが、ただ、“大きな地震”が起こると、ほんのわずかですが“地球の自転速度が速くなる”ことが最近発見されたそうです。 実際、去年の「東北地方太平洋沖地震」が起きた時は、1日の長さが“100万分の1.6秒短くなった”そうです。 それ以外にも、2010年の「チリ大地震」や2004年の「スマトラ沖地震」の際も、地球の自転速度がほんのわずかですが早くなったと分析されています。 そのため、“現在の暦”ももしかしたらどこかで再調整される時期が来るのかもしれないですね。 また、皆さんは“うるう年”のほかに『うるう秒』というものがあるのをご存知ですか？ こちらもうるう年と同じで、暦と地球の自転との調整ため、“6月末日”か“12月末日”のいずれかの日に“1秒間”加えられます。 この“うるう秒”は過去に“24回”導入されており、最近では“2008年12月31日”がうるう秒の年でした。 このように「うるう年」や「うるう秒」について考えてみると、当然のことですが、私たちの暦や生活は地球や天体の動き方と密接に関係していることに気付かされますね。 今月は平年よりもせっかく1日長いので、どうせなら「楽しむ日が1日増えた！」と思って過ごしてみたいはいかがでしょうか？

あなたも“^{つう}歯科通”になれる…!?

?? 歯医者が出題する“歯とお口”のクイズ ??

子どもの乳歯が抜けてしまった場合、私たち日本人は『^{えん}上の歯は縁の下』、『^{やね}下の歯は屋根の上』に放り投げる風習があります。 これは“新しく生えてくる^{えいきゅうし}永久歯が、まっすぐ丈夫に生えてきますように！”といった願かけの意味があるそうです。 さて、ここでこんな問題を出題！



Q “アメリカ”では子どもの乳歯が抜けてしまったら、その歯をどのようにする風習があるでしょう？

1



歯を箱に入れ、ベッドの脇のテーブルの上に置いておく

2



特に何もしない

3



歯を^{まくら}枕の下に置いて寝る